

男女共同参画情報誌「あなたとわたし」第21号

輝き熟年座談会 「いま迎えた私たちの輝き人生」

実施 6月5日(月) 午前10時～正午

福生市福祉センター2階

座談会出席者

TYさん・TNさんご夫妻

TYさんは、定年前から市の公民館の音楽活動のリーダーとして、サークル運営や音楽祭を企画運営。鉄道が趣味で全国中を撮影や乗車のために駆け巡っておられます。バドミントン大会で数々の好成績を残されたNさんは、ビジネス書道で筆耕を頼まれたり、指導をしたり、また、「遊書」でも新境地を開拓。地域活動にも熱心で、ボランティアとしても福祉に協力しています。

STさん・SKさんご夫妻

SKさんは、PTAや町会での活動のあと、子育てを終えて、立川の企業にフルタイムで勤務中の忙しい毎日。リタイア後の地域での活動も何にするかと、意欲的に探しておられます。ソフトボールの公式審判員のSTさんは後進を育成中。定年後、公民館分館の管理運営に携わる傍ら、シンガポールにある長女の会社顧問として、毎月、現地に通っています、家庭では主夫としても活躍中です。

HKさん

中近東から東南アジア、タイ、シンガポール、ジャカルタと、何十年間も海外での勤務。

定年後は、実際に世界中で使える英語を勉強したり、現役で看護師のパートナーと愛犬との生活です。エンジニアとしての技術を活かし、自宅のリフォームに意欲的に実践中です。

現況紹介

SKさん

いま、フルタイムで勤めていますが、PTA 役員や町会の活動は経験しています。これまでは、英語をやりたいとか、書いたものをまとめたいとか、いろいろやりたいことがありますしたが、子育てなどで、いろいろあって趣味は続きませんでした。今は、地域の皆さんがどんなサークルをやっているのか気になり、早くお仲間に入りたいと思っています。

STさん

在職中は、四六時中家に居ることのない生活でした。定年後は「濡れ落ち葉」だとか言われる世間の中で、どうなるのか不安でした。しかし、定年後は、月のうち、10日間は、シルバー人材センターの人材紹介からの紹介で近くの会館の管理業務を手伝ったり、長女夫婦がシンガポールで会社をやっているので、1カ月に5日間ほど毎月行ったりしていて、忙しくしています。

TYさん

やることのない人が羨ましいくらいスケジュールがいっぱいで、困っています。私もシルバー人材センターに入っています。また、市民音楽祭の総まとめをやっています。

56才の時、会社で早期退職の募集があったので、妻に辞めてもいいかと聞いたら、い

いよと言うことで、手を挙げて辞めました。

半年ばかり遊んで、別のところで「来てくれ」と言われ2年半ほどつとめたんですが、やりたいことがいっぱいありまたやめました。若い頃からタンゴが好きでしたが、友人に誘われたのがきっかけで、仲間とタンゴの演奏を始めたりしていたのです。そんなことから音楽サークルの取りまとめを、20年くらいしています。

そんな合間にも、好きな鉄道を乗りに行ったり、シルバーのパソコン教室の講師をやったりしています。

妻は仕事とネコやメダカや植木の世話などで忙しく、家にいても別居同然の生活ですが、一緒にご飯は食べています。家事も多少は手伝っています。

もうちょっとのんびりしたいなと思うのですが、時間ができると、本屋に行ったり、交通博物館にいたり、となっちゃう。困ったもんだと思っています。

TNさん

カレンダーに予定を書き込んでいますが、白い日は月に何日あるかという忙しさで、こんなに忙しくていいのかなって、2人で話しています。

働くことが好きです。ある日、本屋でビジネス書道と言う本を見つけました。宛名書きから賞状の書き方など、芸術の書とは違ったものでした。これは面白いと、独学でやっているうちに、平成元年の頃ぐらいから、筆耕依頼が来るようになり始めました。

実用書道を続けてきましたが、「遊書」もやってみたくなくて、公募のインテリア書展等で楽しんでいます。仕事以外の書で、部屋の中に飾れるインテリアとしての書も面白いと、まわりの人も共鳴してくれて、いま、一緒に楽しんでいます。

2人の子どもは結婚し、孫もでき、今は何も心配ないので、夫婦二人と猫、花を育て、

たくさんのメダカと一緒に生活です。

HKさん

定年後は、のんびんだらりの生活で、庭をいじったり、散歩したり、ドライブをしたりしています。

最近、身体の方は体力が落ちたとは感じています。

何十年、中近東から東南アジア、タイ、シンガポール、ジャカルタと海外生活がほとんどで、帰ってきて、日本語を話している女性の方の話を聴いて、心地よいと感じたものです。日本語がそのまま伝わって、これを聴くのはいいものです。ずっと頭に入ってくる、内容がすぐ理解できます。

定年は 60 才でしたが、63 才まで働いてといわれて続けました。しかし、もういい加減、辞めさせてくれと辞めました。いまは、ほあっとした生活をしています。

定年後、夫婦二人の生活は変わりましたか？

TNさん

変わりました。夫は、掃除をしてくれます。私は、「ほうき」は好きですが、「掃除機」が嫌いなので。ご飯は私が作ります。でも、毎回ではありませんが片づけは夫がしてくれます。夫は会社勤めの時は、会社から直接、公民館に通っていた人ですからね。

SKさん

私は仕事で、立川に通っています。勤務時間は 8 時半から 5 時半ですが、朝 7 時半頃に出かけて、帰るのも 7 時頃。夫は、家事を勤めている間はしませんでした。退職後、

掃除とかを、だんだんいろいろやってくれるようになりました。夕飯に美味しい「けんちん汁」を作ってくれたり。二人になってから、ラクですね。

子育ての頃は家にいて、パートで少し働きましたが、子どもが中学になると、年齢的に、フルタイムの仕事につかないと正社員にはなれないと職に就きました。

HKさん

前から、掃除、洗濯などはやっています。ただ、食事づくりはやりません。住宅が20年近く経って、木造ですから、あちこちが痛んでいるんです。特に、電線の配線などの不具合や、板張りなど、探すと結構あり、手を入れないといけません。

自分で仕事を見つけています。いやなことは、洗濯の時、妻の下着を外に干すときなど、あれはあんまり見せたくないですね。

妻はフルタイムで働いています。夫婦二人の共通の趣味もありませんし、勤務も違ってきますから。言葉がとぎれがちでした。最近、イヌを飼ったのですが、これは効果がありますね。夫婦で、イヌを仲介した会話が多くなり、会話が増えています。

TYさん

これからは、やっていることを少しずつ整理していかないとと思っています。このままだと、身体が持たないのではないかと。音楽祭のような催しも、次の人にバトンタッチすることを考えておかないと、居なくなったときに迷惑をかけることになる。しかし、なかなか日々に行うことが多くてできないですね。10年先には、こうしたいとイメージして、計画をたてておけばいいんでしょうが。

TNさん

夫は、やりたいことが沢山ある人ですけど、実のところ、私たちの結婚式の時まで、

夫は、大好きな「汽車」の「キ」の字もいわなかったんですよ。

結婚してから、SLの写真を撮りに行ったり、乗りに行ったり。会社の大きな休み、ゴールデンウィークや夏休み、お正月休みの全部を使ってです。私と子どもは留守番。ですけど、「それくらい好きなんだ、これでいいんだ」と思っています。こういうロマンがあることが、羨ましいくらいに思っています。

HKさん

海外での生活経験から使える英語、米語を勉強しています。こちらの教科書の英語は、日常では使われない、使っていない英語を教えている。文法や用語としては間違いではないのですが、いま使っている言葉ではありません。私と一緒に勉強した女子高校生が、英語の弁論大会で一位、二位とったりもしています。

STさん

好きなこともあり、ソフトボールの公式審判員で、関東リーグの審判をやっています。最近では、仕事の関係や体力的に、球審を月に一試合くらいしかできなくなりました。そのために、若手を育成しています。審判というのは、身体で覚えなければならない。ボールの最後まで追っかけていく。自分の見える位置まで。捕ったのか、捕らなかったのか。結局、頭で知っていても、身体で覚えるしかない。まず、動け。ポールから目を話すなど。立つ位置とか。月に1回くらいしかできない。技術を教えないと、教える人がいなくなってしまうと思います。

定年を迎える団塊世代へのアドバイス

TYさん

私は公民館との付き合いが長い。定年になって、何かないかなという人は、公民館に
いってみるといいと思います。公民館では、いろいろな事業をやっています。音楽や文
学講座のようなものもあり、一つだけではなく、いろいろやってみるといいですね。い
ろいろやってみるなかで出逢ったことに、はまってしまう人もたくさんいらっしゃいま
す。

公民館での活動は、過去のことを聞かれないし、そんな場ではありません。気軽に行
けるところです。講座でウクレレをやっていて、面白そうだからと、ハワイアンをはじ
め、ハワイアンで歌があるからとさらにコーラスを始めた人もいます。新しい自分を発
見した人も何人か知ってます。

公民館の宣伝ではありませんが、いろいろな地域で活動やっているので、一回、顔を
出してみても、いろいろなことをやってみるといいですね。自分に合うの合わないのがあ
ると思いますので。そして、その中から、自分に合うものを見つけていくといいです。

自分は無趣味だと思っけていても、好きなことが何かあると思います。カラオケが好き
だ、花を眺めるのが好きだとか。そこに顔を出せばいろいろな人がいて、その中で気の
合った人と話すこと。新しい発見があります。

SKさん

私なんか、入っていけないのではと、おっくうがる人もいるのでは。

TYさん

グループとして、固まっているものもあるが、初心者向けのいろいろな講座もありま
す。行ってみて、ダメだったら止めればいいんだし。カルチャーセンターだと、入会金
があり、受講料が必要だが、公民館の場合、ありがたいことに、ほとんど費用はかかり

ません。

STさん

今のお話とは、逆の例を見たことがあります。定年でお辞めになり、家庭に入って、無趣味で一日中奥さんと一緒にいる。新聞や本も読まないし、散歩もしない。家でテレビをみているだけ。サラリーマンは12時になるときちゃんと「お昼」となる。家にいても、12時になると「おい飯」となる。

年中妻と一緒に。とうとう妻が、ノイローゼになって入院してしまいました。こんな人に対して、週に3日でもいいから、どこか勤めに出たらとアドバイスしました。妻と離れる時間を作った方が良くね。その頃は、プレッシャーやストレスが、妻に相当かかったのではないかと思います。

その後、いい勤め先が見つかりました。

妻だけが家にいたら、お昼は、残り物でも済むし、何かちょっと摘めばいいやとなりますが、夫と一緒にいると、たとえインスタントラーメンでも、ちゃんと作ってあげなければならぬんです。

HKさん

皆さんと大体同じです。私は技術屋ですが、永年、皇居で、左官の仕事をしていた友人がいて、定年後も同じ仕事をしている。彼は、他の人にはできない技術を持っていて、これができる若い人がいない。

私も、永年、水道屋や空調、電気をやってきた。こんな仕事の技、コツを学ぶには、先輩から具体的に教わる必要がある。そういう人が、今いない。そんな技を伝える組織が必要だと思います。

技を伝承する機会を作っていくことも必要です。そういう場が作れたらなあと思います。

TNさん

10何年前に、第九を歌ったときの打ち上げで、玉子屋さんが卵焼きとゆで卵を持ってきた。美味しかったので、その養鶏場を訪ね、その卵を買って、近所の方に分けてあげた。それ以来、10何年、毎週金曜日に、わが家に、運んでもらって、18人で共同購入しています。その日、時間のある人は家に上がって、お茶を飲んでいく。そこで話しあい、情報交換をしています。

いままでは女性だけでしたが、近ごろは、定年退職した夫が取りにくるようになっていきます。お茶を飲んでいく人はあまりいませんが、立ち話をして、会社の話とか、いまやっている好きなことの話とか、孫のはなしとかをしていく。そういう場になっています。

社会福祉協議会から、近くの老人介護施設に、ボランティアで、習字をやってくれなにかという話があって、1年前から月2回行っています。

定年を迎える前に地域で好きなことをやっている仲間たちへの参加を勧めたいですね。阪神大震災のときにボランティア募金をしたのがきっかけで、その後地域の中で交流できることを目標に女性の会ができました。

私自身は最近引退しましたが、桜まつりに、お団子やお焼き等を焼いて売ったりしました。その売り上げで地域の70才以上の人たちを招待して、食事会やお誕生会への花のプレゼントをしたりしています。

そのほか、町内の新年餅つき大会や夏祭りなど、行事に参加してお手伝いをしています。そういう中で地域の人たちと触れ合う場があれば顔見知りを作れるのではないでし

ようか。

女性たちが、場をつくって、そこにいらっしゃいと呼びかけている訳ですね。定年を迎える夫には、妻の立場として、地域に出て、趣味など新しい生活を見つけてもらうために、どんなこと、アドバイスをしていますか。。

T Nさん

前に、近くの会館で、趣味を見つけよう会がありました。とにかく、出かけて行って、みつけることでしょうね。

男の立場として、やってみたいがなかなかできない。何かきっかけがほしい。どんと、後押ししてくれる人がいればいいんですが。会社生活なら、いやも応もなく、やらなければならなかったが、定年後はやらなくてもいいという背景があります。

S Tさん

私が住んでいる地域には会館があり、いろいろなサークルがあるんですが、参加している人はどうしても同じ顔ぶれになりがちですね。地域を出ちゃって、市内の他の地域の会館のサークルで探すのもいいのではないのでしょうか。そこだとメンバーが違う。こんなことが、参加するときの後押しになるのではないのでしょうか。

T Nさん

福生は、公民館、分館が沢山あって恵まれています。それぞれの館でやることが違って、やりたいことが自宅から遠くの館でやっているということもあります。足を運べばまた違う人たちと知り合える。

妻から夫に「あなた行ってらっしゃいよ」というのと、「一緒に行きましょ
うよ」というのでは、違いはありますか。

H Kさん

私の癖というか、かみさんにこうしなさいよとかいわれると、ひがみで「うるさい」となってしまいます。「一緒に私も行きます」と言われれば、あ、そうかと素直に行く気になるかもしれない。

S Kさん

年代的に、自分から積極的に出ていくというひとは少ないかもしれません。いつだったか、新聞で、夫が妻のやっていることを邪魔しないようにしながら、好きなことをやるという話を読んだが、わあ、すごいなと。濡れ落ち葉さんではなく、積極派ですよ。

皆さんの活動を広報するにはどのような活動をされているのですか。

T Yさん

難しいですね。一人が仲間一人を連れてくれば倍になるが、それがなかなか難しい。

来てね、と声をかけても、必ずしも来ていただけない。好きな方は別だが。関心の薄い人をこちらに向けることは難しい。水辺に馬を連れていっても、飲みたくなければ飲まないのと同じです。

TYさん

最終的には、人対人ですね、広報に載せる、ポスターを貼り出す、インターネットで知らせるなど、また、マスコミに取り上げてもらう。その上で、今度こういうことをやりますからと伝えるのがいちばん効果があると思います。一度、来ていただくと楽しさが分かってもらえます。

SKさん

ポスターを見て、来てねといわれれば、その気になりますね。

結局、人と人がどのようにつながっていくかですね。

SKさん

勤めている者の立場でいえば、金曜日や土日でやるとか、男の人でも出られる時間にやってほしい。土日は難しいのでしょうかね。

こういう時間に、興味がありそうな講座をいくつかつくったら出やすいし、地域と馴染みやすくなる。そこから広がっていくのではないかと思う。平日の午前中など、行きたくても行けないです。

英語とか技術を教えますといったものを、こういう時間帯につくっていただきたい。夜なら、7時半から9時半までの2時間でもいいですね。この時間なら、勤めている人

には行きやすい時間ですね。

そういう意味で、福生駅にできたか輝きサポートセンターなど、活用しやすい場所ですね。講座などだけではなく、行けば誰かいるといったサロンのような場所であってもいいですね。

インターネットの活用についてはどうでしょうか。

SKさん

パソコンやインターネットは、いま会社に勤めている人は、それに関わっていないと仕事にならない。ちょっと前までは、俺は絶対に嫌だとかいっていた人が、いまは、使わないと仕事が先に進まない時代です。時間的な節約もありますしね。

TYさん

インターネットの欠点は、情報が多過ぎて、なかなか目的の情報にたどり着けないこと。目的が明確で、市のホームページにアクセスする場合などは別ですが。

HKさん

私はやっていないのですが、携帯のメールなどに情報を流すのもいいのではないかな。

TYさん

今回の市民音楽祭の情報は、当然、市のホームページに載せてもらっていますが、市

の広報や公民館の広報にも載せてもらっています。また、タウン紙などにも載せてもらっています。しかし、アンケートを見てみると、このような情報で来てくれる人は半数くらい。あとは友だちに聞いたとか、人づてでのきっかけが多いようです。効果がないわけじゃないと思いますが。

福生の地域特性として、都心より、人と人のつながりが強いのではないかと。この良さを使っていければいいですね。

HKさん

名前を明らかにしないで、座談会をしたいからという呼びかけもいいですね。近所のおよしみで出ませんかとか。今日の、この座談会など、直に呼びかけてもらわなかったら、来ませんからね。

確かに、広報などでいくら募集し、伝えてもなかなか集まってもらえないでしょうね。

STさん

さっき夜間講座の話が出ましたが、公民館の主催事業で夜間講座が少ないようですね。ずっと気にしていたのですが。市で、公民館自体が取り上げる主催事業で、夜間講座が少ない。夜やっているサークルはありますが。

TYさん

夜間のサークルは多数ありますが、講座などは市民の方から要望を出して、平日の夜間ではないと出られないからと、利用者の方から言えば、それはできると思う。

利用者側の問題もある。仕方がないや、昼間しかないから行けないやで終わってしまわないで欲しいと思います。財政的な問題もあるだろうが、要望が強ければ対応してくれると思います。

これからの行政サービスのひとつでしょうね。行政としては、場所を提供することだけでも、とても良いことです。場所があれば、市民参加でできます。先輩格の人たちが、積極的に道を開くことが大切だと思います。

T Nさん

行政に働きかけて、提供される機会だけではなく、地域で、自分が住んでいる周りで何か技術を得ること、与えることでもいいし、そういう場が地域にできればよいですね。

そこでみんないきいきと生きていけるのではないかと。

S Tさん

球審の技術を教えていることなのですが、いま、やっているのは町会のチームなんです。そこで審判になりたい人、興味のある人に手をあげてもらって、連盟に推薦してもらって、審判の一番下の資格ですが、それはチームとしてやってくださいと。あと、技術は試合の時、私が裏側で見てあげていて、いろんなチェック点をメモしていて、あのときはこうだった、こうしたらよいと指導しています。

S Tさん

いま、小学校でいろいろなことを教えてくれるボランティアを求めています。そんな求めに応じるのもよいかもしれませんね。

HKさん

たとえば、川原に生えている草などについての知識を、子どもたちに教えるのもよい。食べられる草や、食べてはいけない草もある。我々はそれを知っているが、子どもたちは知らないし、いまのお母さんたちも知らない。それを教えるのもよい。

高齢者は、いろいろな技術と知恵、知識をもっています。それをどうやって伝えていくか。場をつくり、仲間をつくること。人と人のつながりが、ますます必要になってくるのでしょうか。

次に、男女共同参画社会のなかで、団塊の人たちが地域に戻ってくることに對して、どう迎えてあげればよいのかについてはいかがですか。

SKさん

会社では、上役は男性がほとんどですが、いまのPTAとかを見ていると、ほとんど全員が女性ですね。

これが、男性にとって敷居が高いことでもありますね。

STさん

いま、サークルは、女性が中心になっています。中には、男性を入れないサークルも

あります。ここでは、今日、話題になった濡れ落ち葉的な夫の意見を吸い上げています。

学童登下校時間の見守り

HKさん

小学生の下校時の見守りを定年後の人たちにしてもらとういいですね。昔、「緑のおばさん」という人がいたが、見守りを男性の高齢者が買って出るといいですね。

地域に声をかけて、出られる人は、どこどこにと。これは退職された人たちを、一番活かせる方法ではないかと思います。知り合いになると、公園などで、子どもたちが、大きな声で声をかけてくれるようにもなりますし。

地域により、いろいろのようですが、学校からPTAを通じて、子どもたちを迎えに来ることのできる人の名簿をつくったりしても良いかもしれません。働いている人が多いので、毎日送り迎えはできません。自分の子どもなので、心配は心配でというジレンマに陥っています。やっぱり自治会とか町内会の協力をいただかないと、自分の子どもを守ってやれない時代です。

みんなで力を合わせて子育てをしていかないと行けないという現実、やっと今、皆さんが気づいたわけです。

HKさん

子どもたちを、地域の高齢者が怒った方が良くと思います。子どもたちも望んでいる。子どもを怒ってもいい。男性のほうが効くみたいですね。子どもは親が育てるだけではなく、地域が育てるものだと思う。子どもたちとのコミュニケーションが生まれ、地域

の親御さんとも親しくなれる。どこの家の子なのか分り、気軽に声をかけられる。挨拶を
かけあうこともとても大切だと思います。

長い時間、いいお話をありがとうございました。